

パイ・ル先生
白石陽子先生

ようこそ 第六保育所へ



1

ISSスローガン

けがや病気をしない
丈夫な体をつくり、
みんなで安全・安心な
保育所にしよう

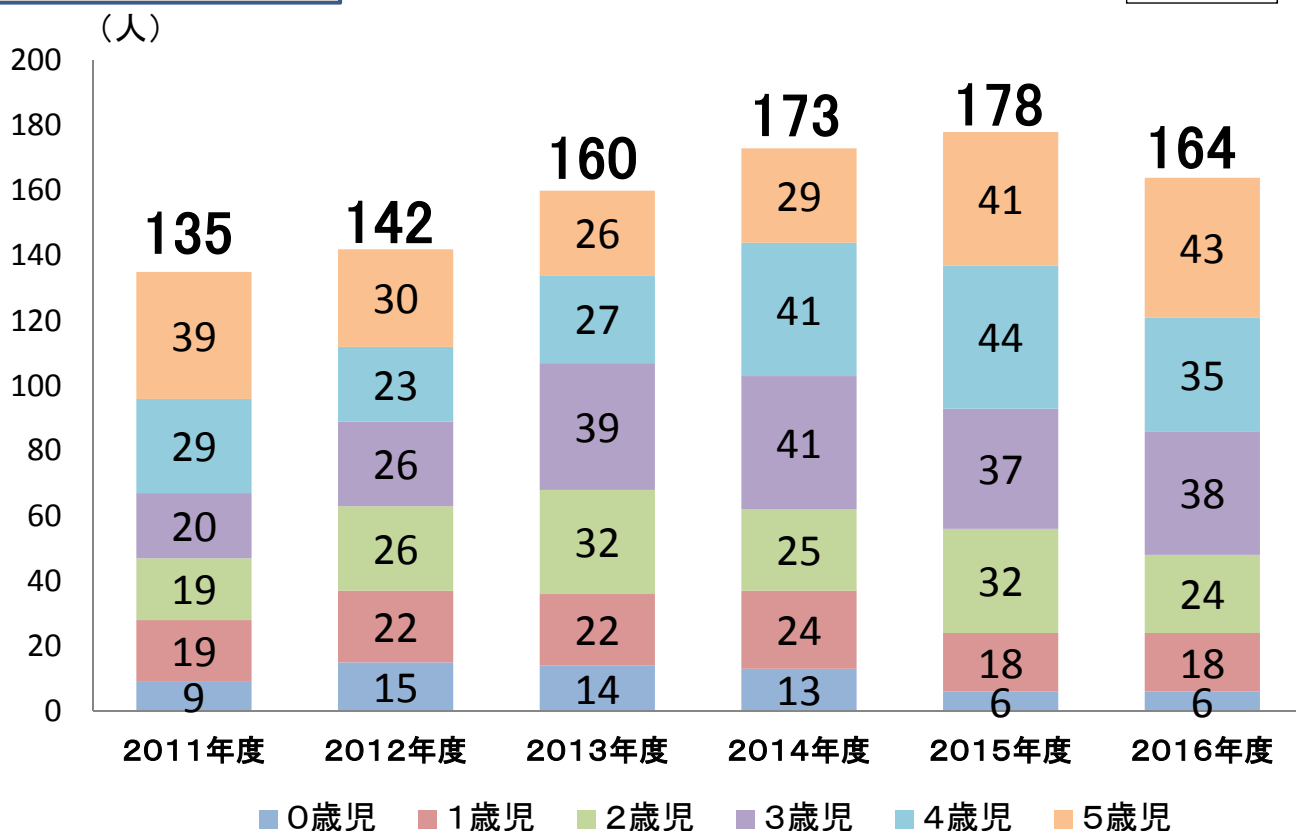
- 1 概要(職員と園児数)
- 2 保育所を取り巻く環境
- 3 ケガの状況
- 4 ケガの発生状況の分析
- 5 8つの指標に基づいた取組
- 6 成果・課題と今後に向けて

2

園児数の推移

※1年間の平均在籍園児数

図-1



出典：第六保育所データ

3

1 概要（職員と園児数）



昭和51年(1976年) 設立

現在 園児数158人
職員63人

0歳児－6人	1歳児－18人	2歳児－24人
3歳児－36人	4歳児－39人	5歳児－35人

(2017年10月現在)

4

2 保育所を取り巻く環境



5



(保育所周辺地区)

保津川団地
(都市基盤整備公団)の東側
にあり
近くに公園がある



6

保育所前



危険が無いよう
誘導中



自転車やバイクが
行き交います

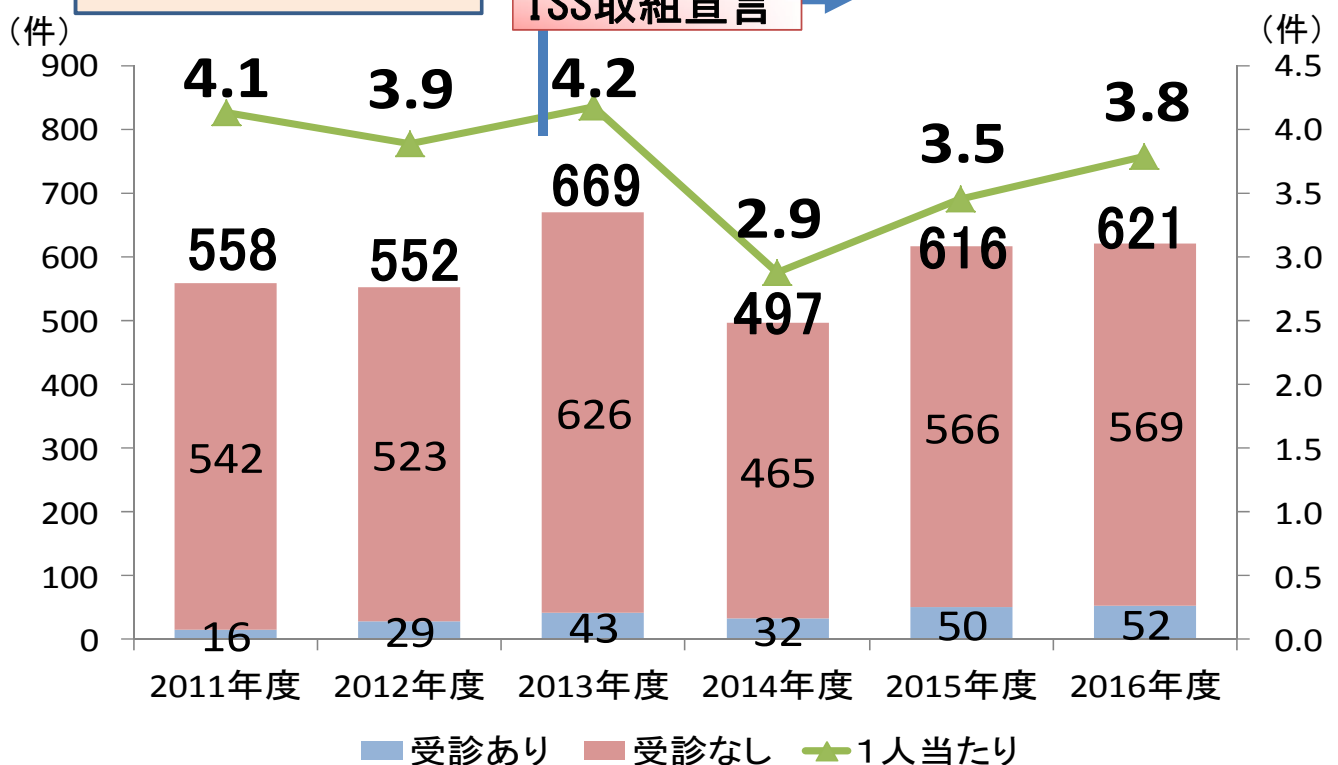
7

3 ケガの状況

図-2

年度別ケガ発生件数

ISS取組宣言

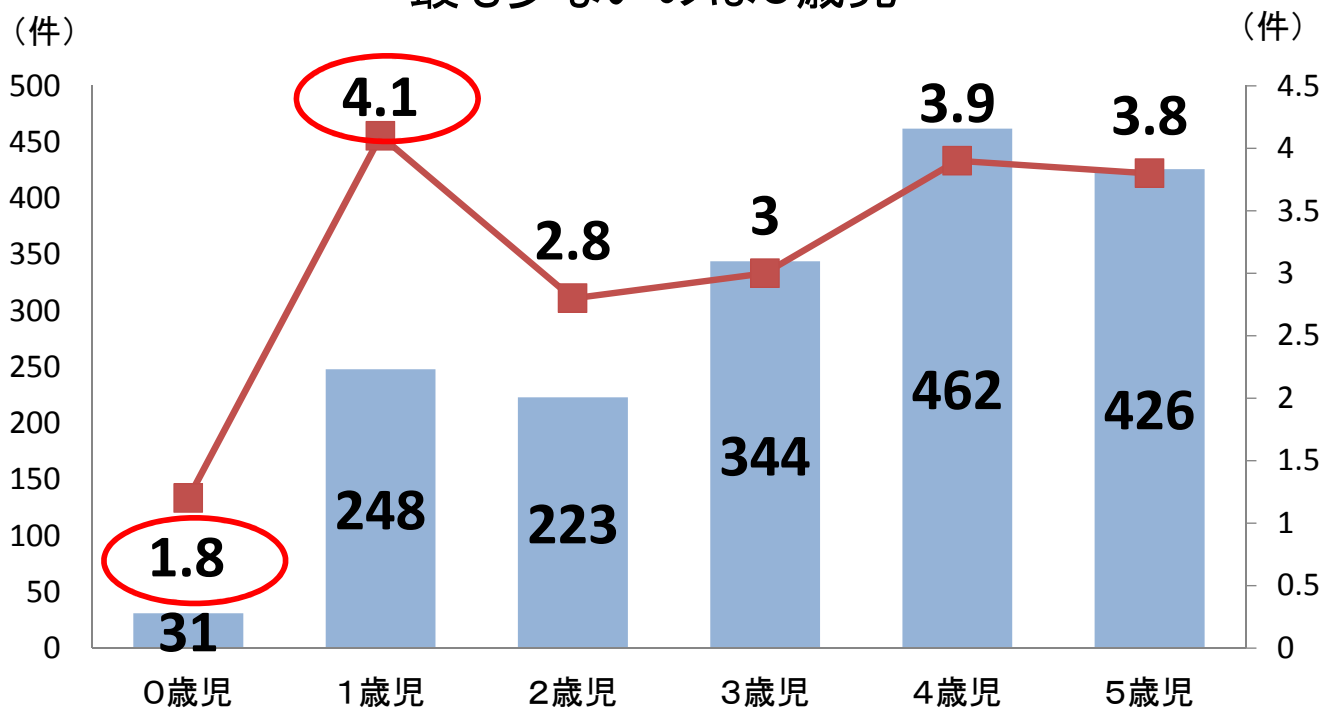


出典: 第六保育所外傷データ(2011. 4~2017. 3) 8

年齢別ケガ発生件数

図-3

一人当たりのケガ数が最も多いのは1歳児
最も少ないのは0歳児



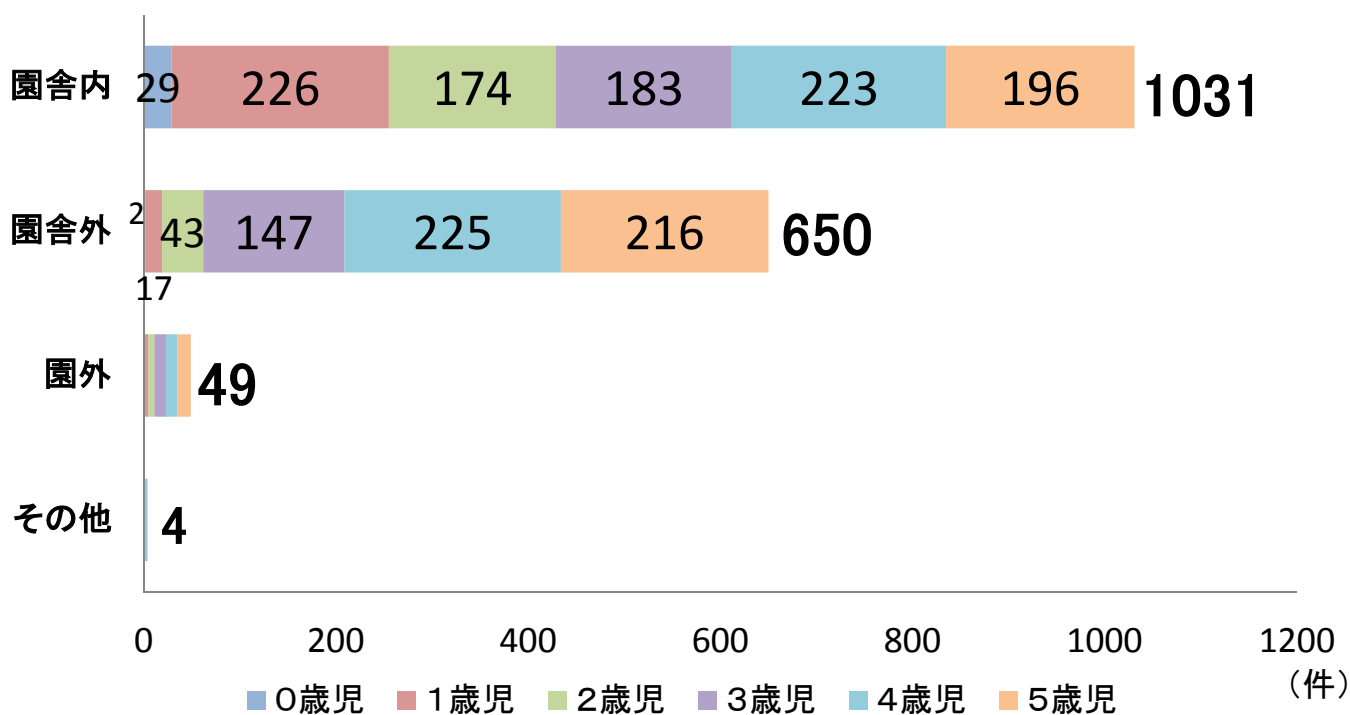
出典: 第六保育所外傷データ(2014. 4~2017. 3)

9

場所別ケガ発生件数

図-4

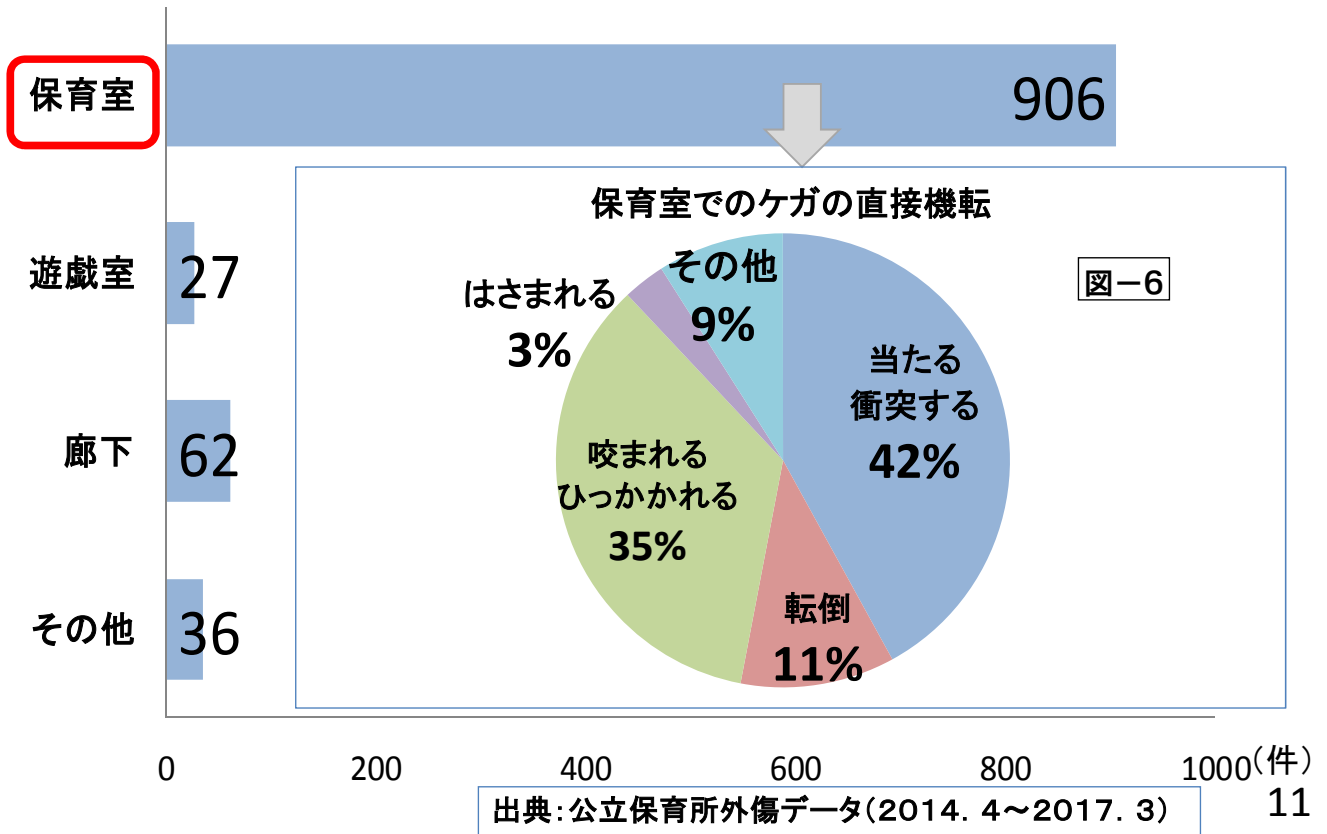
園舎内のケガが多い



出典: 公立保育所外傷データ(2014. 4~2017. 3)

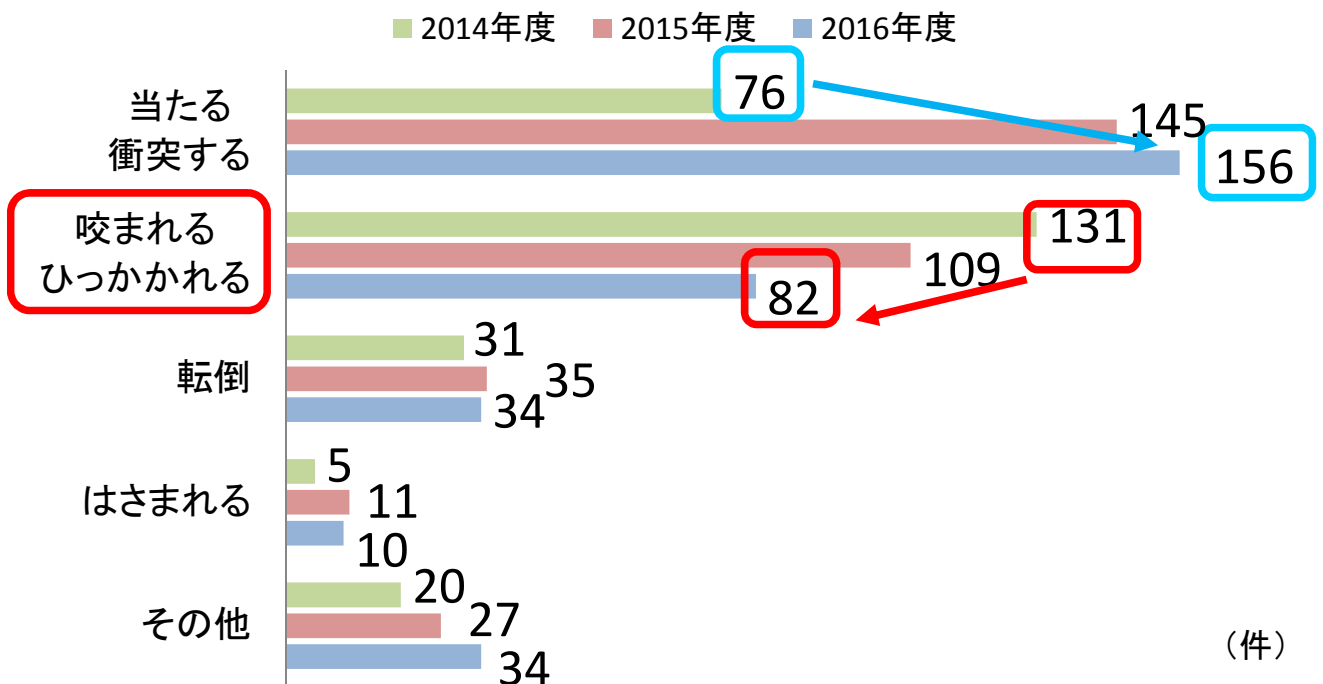
10

保育室でのケガが圧倒的に多い



保育室でのケガの直接機転

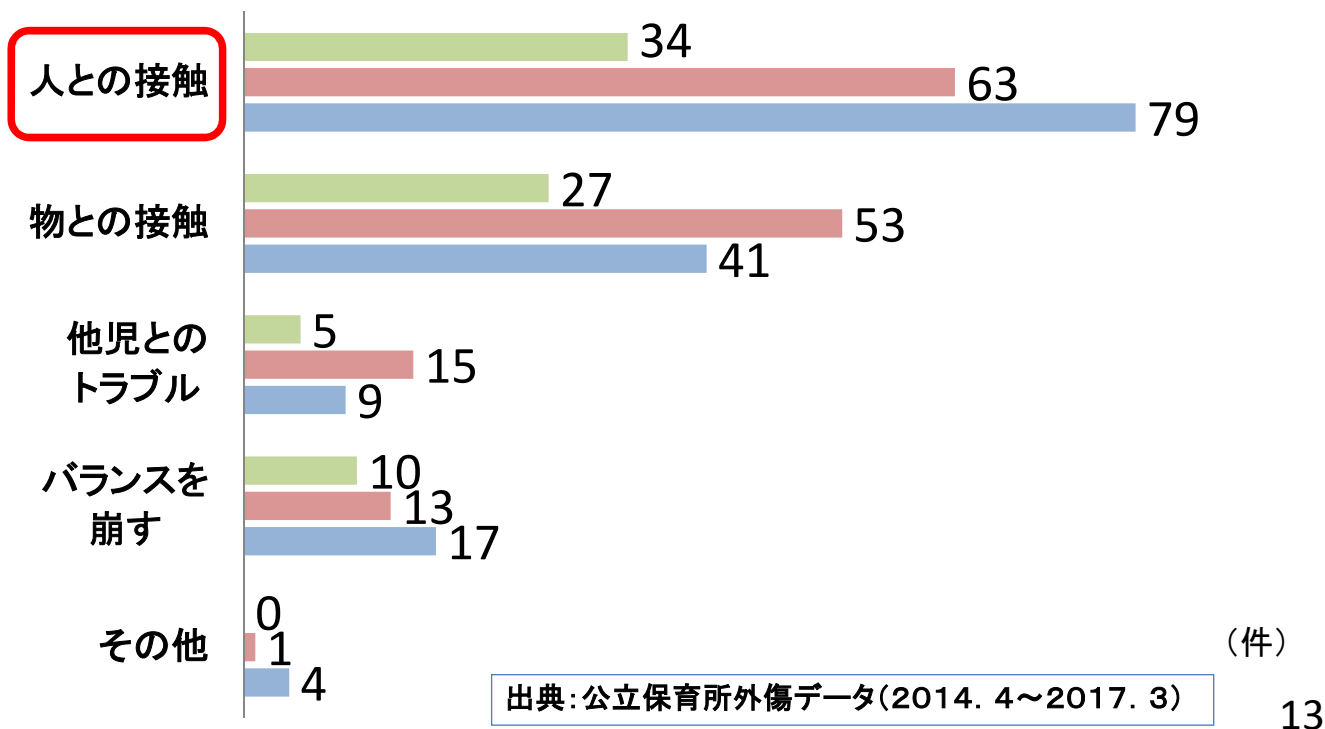
当たる・衝突するは増加
咬まれる・ひっかかれるは減少



(件)

人との接触が多い

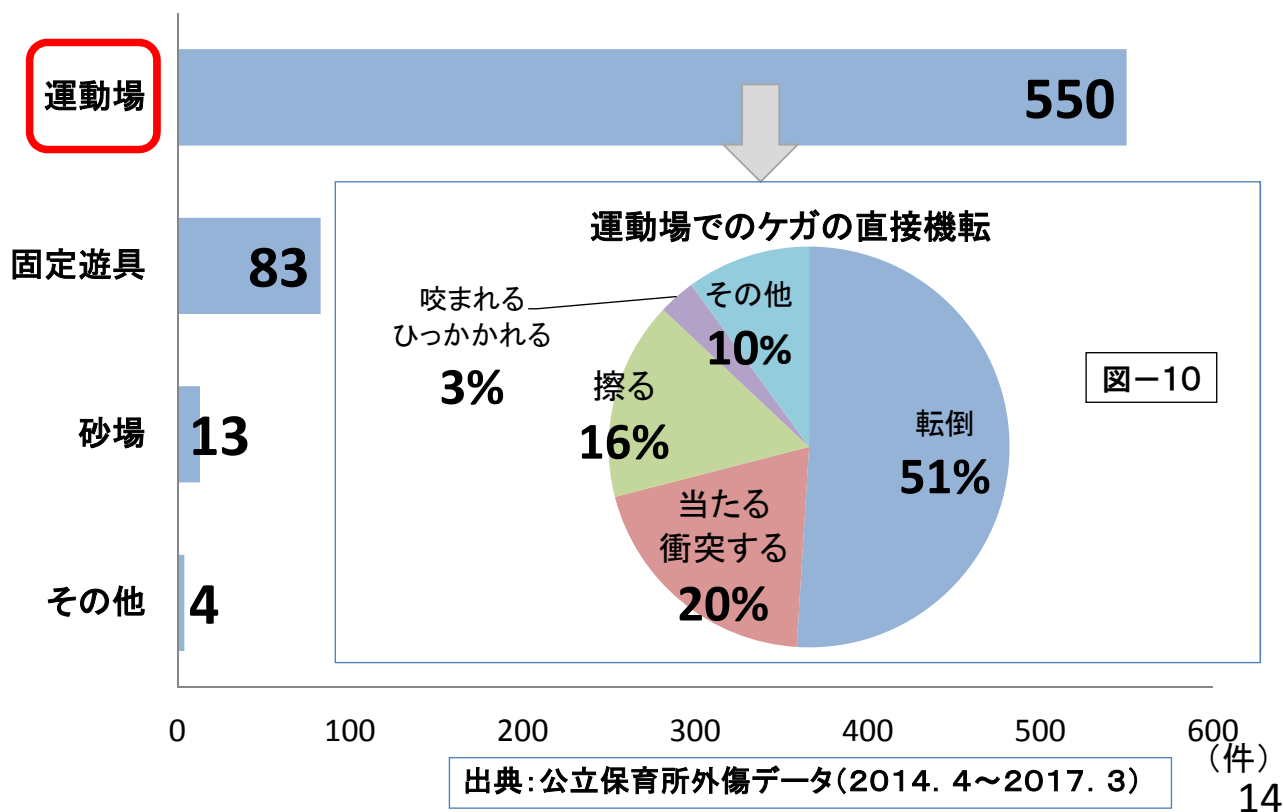
■ 2014年度 ■ 2015年度 ■ 2016年度



13

園舎外の場合別ケガ発生件数

運動場でのケガが圧倒的に多い



14

4 ケガの発生状況の分析

ISS認証時の状況

場 所		課 題
園 内	園舎内	保育室での「当たる・衝突する」ケガが多い
	園舎外	運動場での転倒が多い
園 外		園舎前の道路の交通量が多い

現在の状況



場 所		課 題
園 内	園舎内	保育室での「咬まれる・ひっかかれる」「当たる・衝突する」ケガが多い(図-6)
	園舎外	運動場での転倒が多い(図-10)
園 外		園舎前の道路の交通量が多い

15

5 8つの指標に基づいた取組

指標1 協働を基盤とした、安全向上に取り組む運営体制がある

<園内の体制>



16

指標1

<地域の体制>



17

指標1

地域との
協働

子育て支援事業（未就園児対象）
ハッピー広場

ISS啓発



18

指標3 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

表-1

取組の全体（1. 体づくり 2. 安全教育 3. 環境改善）

		園児						職員				保護者・地域			
園内	園舎内	1-1	1-8	2-1	2-9	2-16	3-1	1-1	2-1	2-9	3-1	1-6	2-5	2-14	3-1
		1-2	1-9	2-2	2-10	2-17	3-2	1-2	2-2	2-10	3-5	1-7	2-6	2-15	3-5
		1-4		2-3	2-11		3-5	1-4	2-3	2-11	3-6		2-9	2-17	3-6
		1-5		2-4	2-12		3-6	1-5	2-4	2-14	3-7		2-10		3-7
		1-6		2-5	2-14		3-7	1-7	2-5	2-16			2-12		
		1-7		2-6	2-15			1-9	2-6	2-17					
		1-1	2-1	2-8	2-16	3-1		1-1	2-1	2-8	3-1	1-6	2-5	2-15	3-1
	園舎外	1-2	2-2	2-9	2-17	3-2		1-2	2-2	2-9	3-2	1-7	2-6	2-17	3-2
		1-4	2-3	2-10		3-3		1-4	2-3	2-10	3-3		2-8		3-3
		1-5	2-4	2-11		3-4		1-5	2-4	2-11	3-4		2-9		3-4
		1-6	2-5	2-12		3-5		1-7	2-5	2-14	3-5		2-10		3-5
		1-7	2-6	2-14		3-6		1-9	2-6	2-16	3-6		2-12		3-6
		1-9	2-7	2-15		3-8				2-17	3-8		2-14		3-8
		1-6	2-6	2-11				2-9				1-6	2-5	2-11	
園外	家庭		2-9	2-15				2-10					2-6	2-13	
			2-10	2-17				2-11					2-9	2-15	
								2-17					2-10	2-17	
		1-3	2-1	2-11	3-1			1-3	2-1	2-10	3-1	1-3	2-5	2-11	3-1
	地域		2-5	2-12	3-2				2-5	2-11	3-2	1-6	2-7	2-12	3-2
			2-7	2-14	3-3				2-7	2-12	3-3		2-8	2-13	3-3
			2-8	2-15	3-4				2-8	2-14	3-4		2-9	2-14	3-4
			2-9	2-17	3-6				2-9	2-17	3-6		2-10	2-15	3-6
			2-10		3-8						3-8			2-17	3-8

(※数値はプログラム番号)

19

指標4 ハイリスクのグループ・環境及び弱者グループを対象としたプログラムがある

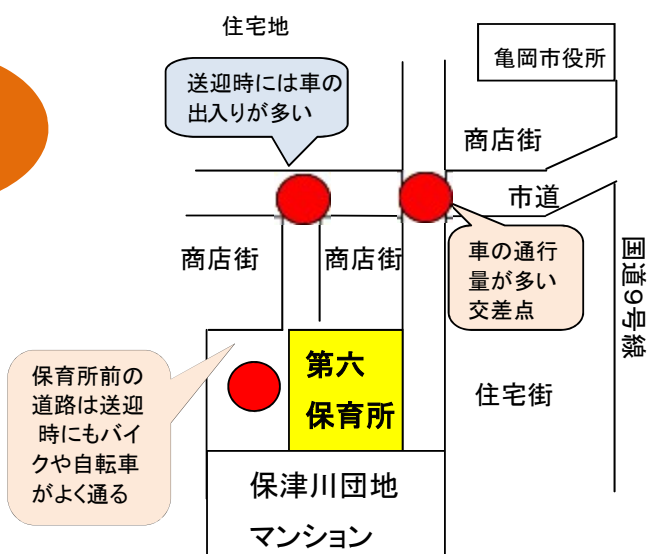
①段差が多い

園舎内廊下の
すのこ



課題

②玄関前に生活道路がある



指標4

課題: ①段差が多い(環境)

設定理由	・バギーでの移動が困難である ・すのこの段差につまづいたり、踏み外したりして危険 ・園舎内の廊下が全て外にあり、外靴・上靴の通行を区別するため、全ての廊下にすのこを敷いている								
対策内容	・段差をなくすために移動式のスロープを使用する ・手作り(土のうと人工芝)スロープを設置する								
現在の状況	すのこの段差につまづいたことが原因で起きたケガ <table> <tr> <td>2014年度</td><td>0件</td></tr> <tr> <td>2015年度</td><td>3件</td></tr> <tr> <td>2016年度</td><td>2件</td></tr> <tr> <td>2017年度</td><td>1件(9月末現在)</td></tr> </table>	2014年度	0件	2015年度	3件	2016年度	2件	2017年度	1件(9月末現在)
2014年度	0件								
2015年度	3件								
2016年度	2件								
2017年度	1件(9月末現在)								

21

指標4

活動実績



22

指標4

課題: ②玄関前に生活道路がある(環境)

設定理由	・玄関を出たら、すぐ道路があり、危険な環境である ・送迎時間帯は、保護者の車・自転車と共に、道路を通行する自転車・バイクも多くなり危険である ・子どもが玄関や車から飛び出すことがある ・交通安全に対して保護者の意識に差がある
対策内容	・交通教室を実施し、親子に交通ルールを知らせ啓発している ・送迎時間帯に職員が道路に立ち、親子への安全啓発と共に、園児の安全確保を行っている
現在の状況	・ケガや事故は1件も起こっていない

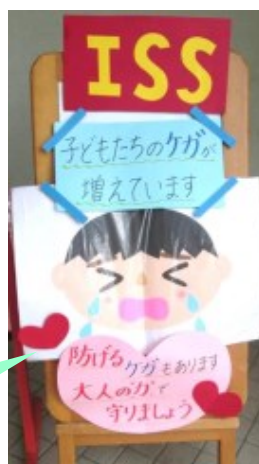
23

指標4

活動実績



保護者に啓発
しています



警察官による安全指導
(園舎前)



交通教室	2014年	3回
	2015年	3回
	2016年	3回

交通教室
チャイルドシート
ジュニアシートの着用

24

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

ISS認証時の状況

「当たる・衝突する」ケガが多い

発生場所…保育室で多い ケガ内容…当たる・衝突する

発生要因…自分でバランスを崩す・人との距離感がもてない

予防内容	方向性	対策
保育室内での 当たる 衝突する ケガ	危険回避能力の向上	体づくりプログラム → リズム遊び・体操
	園児の安全意識の向上	安全教育プログラム → ISS集会 終了
	環境改善	環境改善プログラム → 安全点検

25

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

現在の状況

「当たる・衝突する」「咬まれる・ひっかかれる」ケガが多い

発生場所…保育室で多い ケガ内容…当たる・衝突する 咬まれる・ひっかかれる

発生要因…自分でバランスを崩す・人との距離感がもてない
子ども同士のトラブル

予防内容	方向性	対策
保育室内での ケガ	危険回避能力の向上	体づくりプログラム → リズム遊び・体操 ふれあい遊び 新規
	園児の安全意識の向上	安全教育プログラム → ふわふわ言葉 挨拶運動
	環境改善	環境改善プログラム → 安全点検

26

指標5

課題解決に向けた取組

体づくりプログラム

予防対象	保育室での「当たる・衝突する」ケガ
課題	バランス力を向上させるための基礎体力を養う
対象者	園児(0歳児～5歳児)
概要	・バランス感覚を養う遊びを行う ・体操やリズム遊びなどの全身を使った遊びを行う ・人との安全な距離感を感じながらふれあい遊びを行う
改善点	・発達年齢に合った遊びを取り入れる

27

指標5

体づくりプログラム 活動実績

体操



リズム遊び



素足です



2014年	体操	577回
	リズム遊び	296回
2015年	体操	549回
	リズム遊び	133回
2016年	体操	444回
	リズム遊び	186回

28

指標5

体づくりプログラム 活動実績

3歳児 竹ぽっくり



2016年度
3歳児 33回

4歳児 天狗の下駄



2016年度
4歳児 51回

5歳児 竹馬



2016年度
5歳児 66回

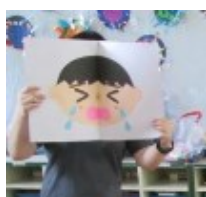
29

指標5

安全教育プログラム

予防対象	保育室での「咬まれる・ひっかかれる」ケガ
課題	相手を大切にするコミュニケーション力を育てる
対象者	園児(0歳児～5歳児) 保護者
概要	・ふわふわ言葉を採集する ・ふわふわ言葉の集会や保護者への啓発に活用する ・朝、年長児が玄関先で挨拶する ・挨拶により、子どもも保護者も気持ちよく一日を迎えられるようにする
改善点	・「咬まれる」「ひっかかれる」ケガに着目をし、ふわふわ言葉と挨拶運動の取組を始める

30

指標5**安全教育プログラム 活動実績****ふわふわ言葉****ふわふわ言葉の集会
保護者への玄関掲示**

2016年度
玄関啓発回数12回



31
51

指標5**安全教育プログラム 活動実績****挨拶運動**

2016年11月～2017年7月
挨拶運動 152回

年長児による挨拶運動

32

環境改善プログラム

予防対象	保育室内のケガ
課 題	人・物との接触を防ぐために保育室の環境を改善する
対象者	園児（0歳児～5歳児）
概 要	・保育室の遊びコーナーの配置換え（集中して、また安全に遊べるために行う） ・必要に応じて個人ロッカーの位置を変える ・毎月1回、安全点検（保育室内の安全に着目し、確認や環境設定の工夫をする）
改善点	・動線に着目し、明確化した

33

環境改善プログラム 活動実績



保育室の出口と入口の表示
（動線の明確化）

34

指標7 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること

体づくりプログラム

短期・中期的指標

【指標】園児の基礎体力の数値
(片足立ち・立ち幅跳び・25m走)

【測定方法】体力測定

長期的指標

【指標】保育室でのケガ数
【測定方法】ケガ件数の記録

安全教育プログラム

短期・中期的指標

【指標】園児のコミュニケーション力
【測定方法】ふわふわ言葉の啓発回数と
挨拶運動の回数

長期的指標

【指標】保育室でのケガ数
【測定方法】ケガ件数の記録

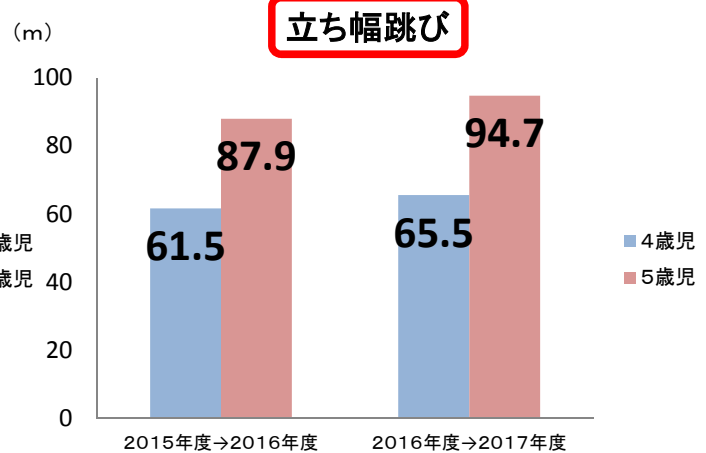
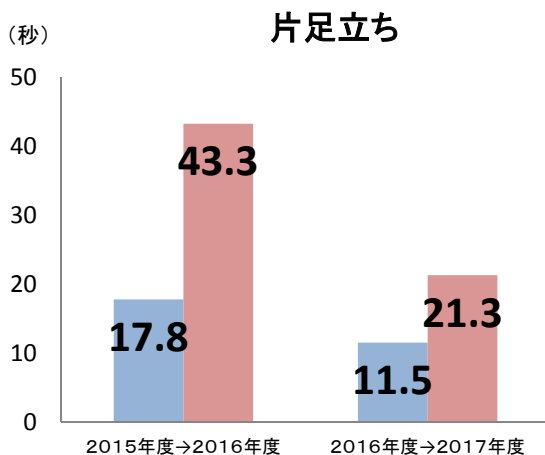
35

指標7

体力測定結果

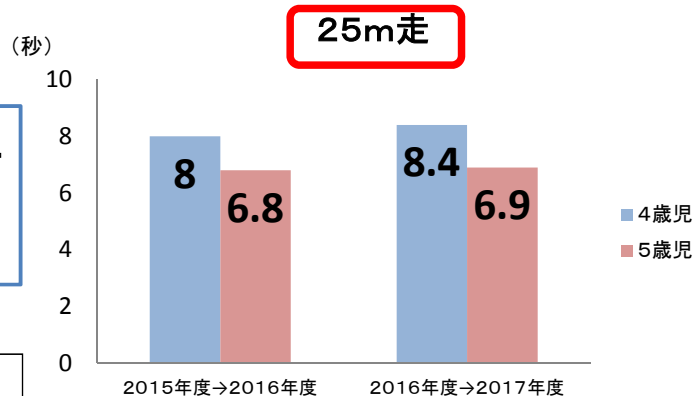
体力は伸びている

図-9



4歳児が5歳児になった時の体力値の変化

出典: 第六保育所データ



36

指標7

環境改善プログラム

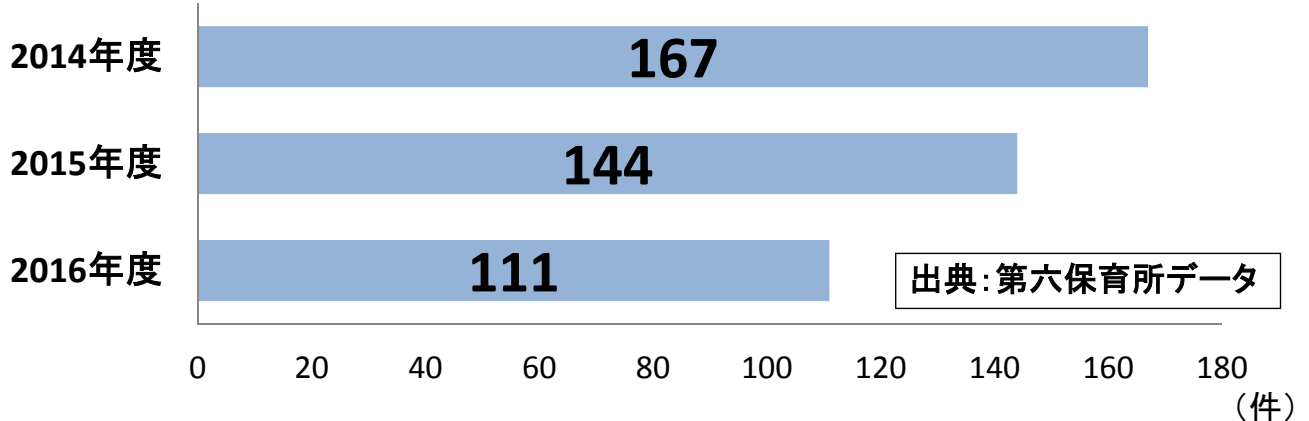
短期・中期的指標

【指標】保育環境の改善箇所数

【測定方法】環境改善箇所の報告書

環境改善箇所数(2014年度～2016年度)

図-10



長期的指標

【指標】保育室でのケガ件数

【測定方法】ケガ件数の記録

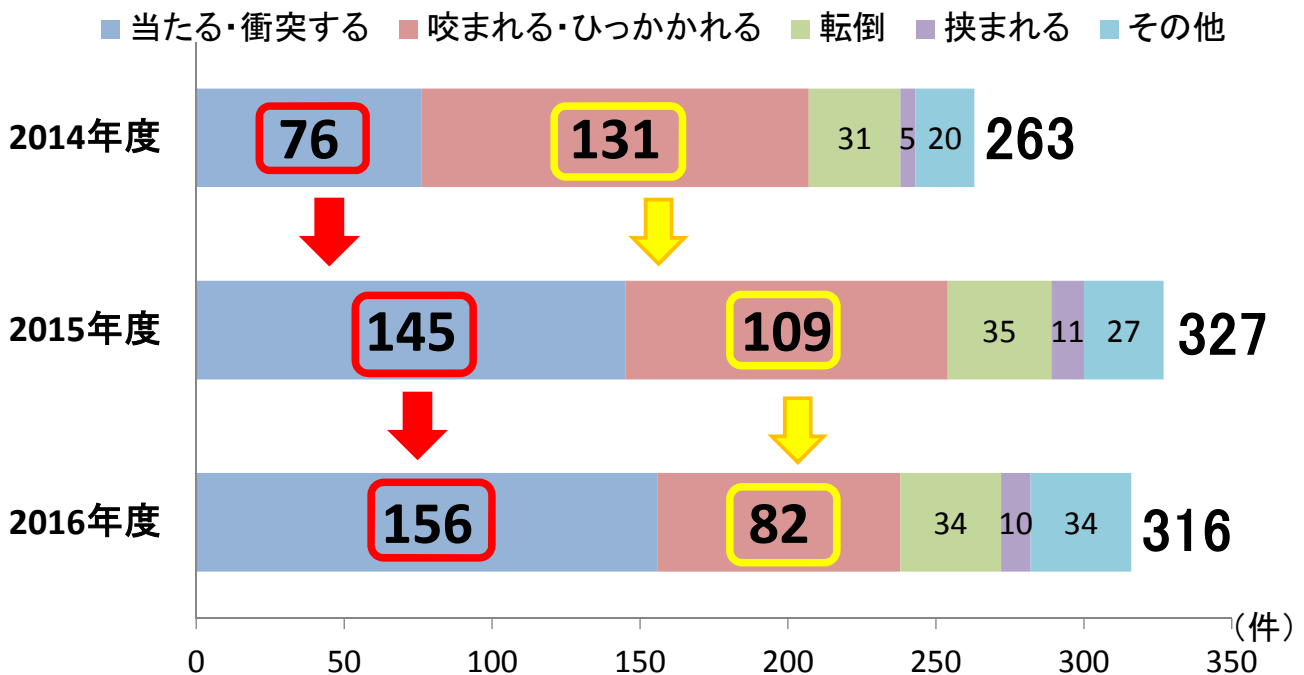
37

指標7

保育室内でのケガ件数(2014年4月～2017年3月)

図-11

「咬まれる・ひっかかれる」は減少
「当たる・衝突する」は再び増加傾向



38

6 成果・課題と今後に向けて

気付きや変化

- 職員の安全に対する意識が向上してきた
- 子ども自身の丈夫な体と優しい心が育ってきている
- 保護者や地域とのつながりが以前よりも強くなり、連携が進んでいる

39

現在の課題

- 保育室での「咬まれる・ひっかかれる」ケガが減り、「当たる・衝突する」ケガが増加傾向にある(図-11)
- 職員のISSに対する知識や理解に差がある

40

今後の計画

- 保育室内でのケガに着目した取組の継続
- 保護者・地域と連携した取組の充実
- 職員のISSに対する知識や理解の向上を図る

41

本日は
ありがとうございました!



第六保育所

42